

Studio “F”

今回の『Studio“F”』では、3つの親楽の様子をご紹介します。
また、8月7日（木）と9月17日（水）には親楽カフェも開催しました。参加していただいたファシリテーターの皆様には大変感謝しています。引き続き『親楽』の応援よろしくお願いします。

TOPIC

- ・湖北・白鳥学園（8.21）
- ・秋鹿幼稚園（9.5）
- ・島根小学校（9.25）

湖北・白鳥学園 家庭・地域連携部研修会について

8.21(木) 15:30～16:30

※F：ファシリテーター

- ・湖北中学校、大野・古江・秋鹿小学校、古江・秋鹿幼稚園に関わる方々計14名
 - ・親楽1 4-③「叱る基準は？」（ランキング）＝高橋 杏実奈F、原田 京美F
- 各地域から集まれ、年齢層も広範囲の親楽になりました。アイスブレイクでは、じゃんけん5（ファイブ）で一気に盛り上がり、ござの上で顔を近づけてワークに夢中になっている姿が印象的でした。

「受講者の感想」

- 自分が普段子どもと関わる時に、どんな思いで伝えているのかを改めて考える機会となりました。色々な年代の方々の様々な考えが聞けて楽しかったです。また、違うテーマでもやってほしいです。
- 人それぞれ色々な考え方があることを改めて感じました。そして、なぜそう思ったのか聞いてみると「なるほど、そういう考え方もあるな」と、納得できました。そしてどれも皆さんが子どもに伝えたいことは一緒だと感じました。
- 学校・家庭・地域のそれぞれの立場の方々が集まり、意見交換できました。今回気づけたことを今後に活かしていきたいです。



秋鹿幼稚園保護者研修会について

9.5(金) 9:20～10:20

※F：ファシリテーター

- ・保護者3名、担任・教頭・サポーター計6名 2-③「私のほめ方・しかり方」（ロールプレイ）：藤原 睦己F
- 今回が初めてのファシリテートとなった藤原睦己Fでしたが、アイスブレイク「なんでやねん」から参加者をリリリにさせ、ロールプレイで親や子どもになりきってやり取りできるようにしていました。

「受講者の感想」

- 一旦子どもの思いを受け入れてから、一緒にどうするか考えることも大切だなと感じました。
- ほめられることは、いつになっても嬉しいものだと感じ、子どもにはほめすぎないくらいでほめて、気持ちを伝えたり愛を伝えたりしていきたいと改めて思いました。
- ファシリテーターさんが言うてくれたように、親の気持ちのコントロールが一番の課題だと感じました。感情的にならずに対応できるようにしていきたいです。
- 皆さんと話をしていて、自分とは違う伝え方をしているということが分かり、真似てみたいと思いました。また、保護者さんと仲良くなれて良かったです。

島根小学校 PTA 研修会について

9. 25 (木) 14:40～15:30

※F：ファシリテーター

・65 名（保護者・教職員 23 名、児童 42 名） 2-②「こどもに伝えるのって難しい！」（シミュレーション）

高橋一平 F、原田京美 F

児童も参加するという形の親楽になったが、打合せ段階からこどもたちも気づきやつながりづくりの場になるようワークショップの内容を検討した。児童 2 人に大人 1 人のグループで 3 回“絵を伝える、描く”を繰り返してグループや 2 グループ、全体で分かち合いを行った。児童なりの「伝える」難しさや大事なことの気づきもあり、そんな児童の様子に大人も気づきや発見の多かったプログラムになりました。

児童参加型の親楽で、児童の動線やグルーピングなど、考慮することが多々あったが、2 人のファシリテーターが的確かつ迅速に対応していて、大変有意義な時間をファシリテートしてもらえました。

《受講者の感想》 ○伝えることの難しさを改めて教えていただいた。思いやりをもって伝えたいと思う。

○伝える側はもちろんだが、聞く側の態度がとても大切だと思った。相手の伝えようとするを「何とか理解したい」という気持ちは態度にでると思う。普段こどもたちの話にそうやって耳と心を傾けていなかったなと改めて気づいた。

○言葉と目とジェスチャーと視線を同じ高さで本当に伝えようと思うとき、こんなに気持ちを込めるんだと感じた。



↑急遽玄関にござを敷いてスタート！

じっくりセルフを考えて役割になりきって！

感じたこともみんなで共有！

松江市教育委員会生涯学習課 担当：森脇・川神

〒690-8540 松江市末次町 86

TEL：55-5288

FAX：55-5543

E-mail：oyagaku@city.matsue.lg.jp

☆皆様からのご意見や情報提供、お待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。